

3. チョーライ病院との医療技術協力と地方展開のための省病院での卒後研修強化

国立大学法人 筑波大学附属病院

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

ベトナムでは非感染性疾患の罹患率・死亡率の増加に伴い、保健医療における病院の役割は増大している。その状況下、医療技術向上と人材育成、そのシステム強化の重要性は高い。

【活動内容】

筑波大学附属病院ではチョーライ病院およびホーチミン医科薬科大学と協力覚書のもと協力関係にあり、これまでの協力を基に拡大して協力する。派遣約 20 名、研修生受入約 15 名、現地でのセミナー開催、省病院（ティエンザン省）での卒後研修の協力をする。

【期待される成果や波及効果等】

チョーライ病院の診療機能の更なる改善、卒後研修制度の改善に対してはホーチミン医科薬科大学を含めて協力し、今後の南部ベトナム地域の診療サービスの改善に貢献する。

< 研修実施結果 >

研修生受入

7月 3名、8月 3名、9月 3名、
10月 5名、11月 1名

専門家派遣

5月 1名、7月 2名、8月 1名、
9月 4名、10月 9名、11月 4名

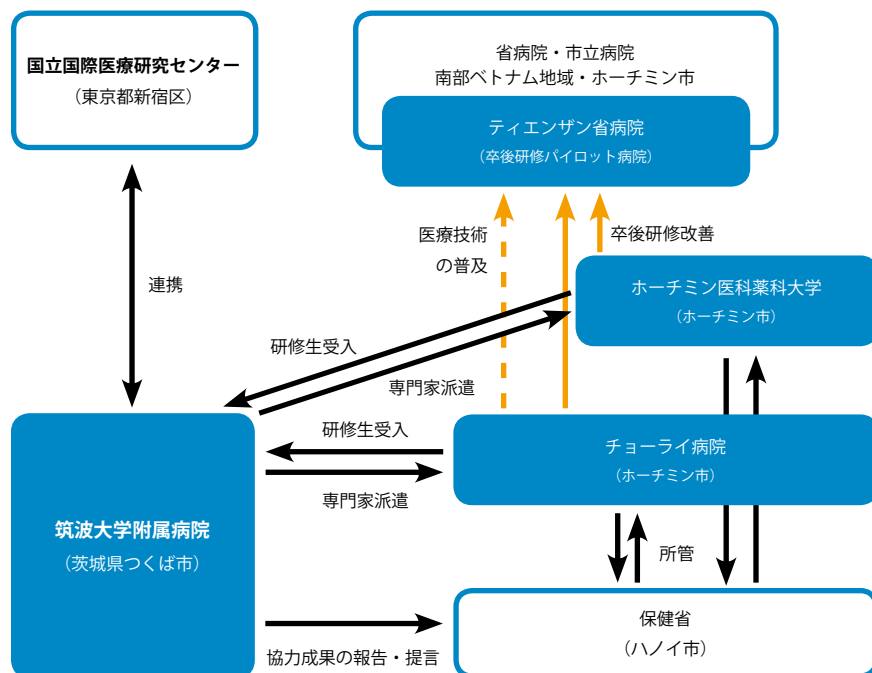
研修指導者講習

9月 ホーチミン医科薬科大学・
ティエンザン省総合省病院

循環器疾患セミナー

10月 対象は南部省病院・ホーチミン市立病院
遠隔医療カンファレンス

5月、7月、8月、10月、11月



チョーライ病院との医療技術協力と地方展開のための省病院での卒後研修強化

協力期間: 2016年5月20日 - 2016年12月20日

主な協力:

1. 筑波大学附属病院スタッフのチョーライ病院およびホーチミン医科薬科大学への派遣
2. チョーライ病院およびホーチミン医科薬科大学スタッフの筑波大学附属病院での受け入れ
3. 技術協力と人材交流
4. セミナーの実施
5. 指導医講習ワークショップの開催
6. 遠隔医療(Tele-Conference)の実施

我々は筑波大学附属病院とチョーライ病院との医療技術協力と地方展開のための省病院での卒後研修強化を行いまして、スタッフ派遣、研修受け入れ、技術協力と人材交流、セミナーの実施、ワークショップの開催、遠隔医療(Tele-Conference)を実施しました。

プロジェクトの目標

【短期的な目的】筑波大学附属病院とチョーライ病院およびホーチミン医科薬科大学との連携を深め、パイロット省病院の研修機能を強化することにより南部ベトナム省病院、東南アジアの人材育成の改善に繋げ、医療技術水準の向上により地域住民への診療サービスの改善に寄与する。

【長期的な目的】チョーライ病院およびホーチミン医科薬科大学と協力し、対象分野の診療の向上、パイロット省病院における卒後ローテーション研修の強化支援を行うことにより専門分野の技術水準の改善および地方レベルの研修改善による全体としての底上げを同時に目指す。筑波大学附属病院としてはベトナムという中進国の医療の改善および地方での研修の改善を通して国際貢献をする。

プロジェクトは、チョーライ病院ではそれぞれの技術協力、ホーチミン医科薬科大学では地方への展開のための研修の強化を目標としております。

期待される成果

1. チョーライ病院における医療技術の向上、特に手術を含めた治療技術、術後管理の改善により、患者サービスが向上する。
2. 上記、診療は主にICU、ICU看護、心臓血管外科、脳外科、消化器外科、腎泌尿器外科、耳鼻咽喉科の分野で改善する。
3. その他に、内視鏡診断・治療分野、循環器内科分野においても技術向上を通して患者サービスが改善する。
4. これらの分野における協力の成果が南部ベトナム地域の医療従事者に波及する。ことにより同地域の医療水準が改善する。
5. 本大学附属病院との協力を通して各診療分野における情報共有、教育活動を促進する。
6. 本大学附属病院での協力を通して「患者中心医療」の医療文化をチョーライ病院医療従事者が獲得する。
7. 省病院(ティエンザン病院)での卒後ローテーション研修が強化される。
8. 卒後ローテーション研修が実施される。(フォローアップ)

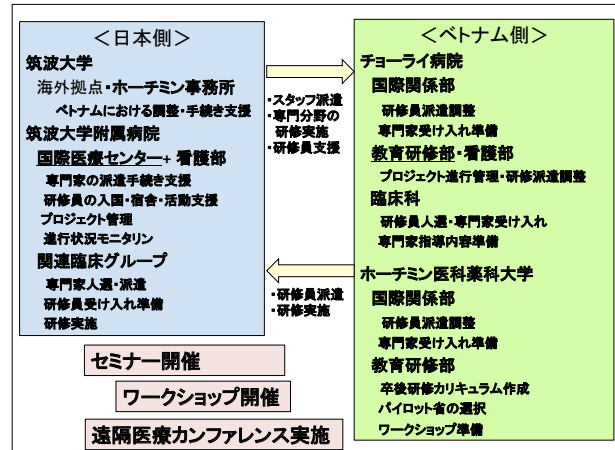
期待される成果ですが、上から3つはそれぞれの病院の内科系、外科系の医療技術の向上と、患者サービスの改善です。4番目以降は、これらの分野における協力の成果が南部ベトナム地域の医療従事者に波及することで、同地域の医療水準が改善されるということです。また、附属病院

を通じて研修員に患者中心医療という日本の医療文化を学んでいただくことを期待される成果としています。それに加えて今回は地方展開を含めておりますので、ベトナムの保健省で2006年から政策として取り入れている卒後ローテーション研修の強化を実施しております。

協力分野

1. ICU
2. ICU看護
3. 心臓血管外科
4. 脳神経外科
5. 消化器外科
 - ① 消化管外科
 - ② 肝胆膵外科
 - ③ 肝腫瘍科
6. 循環器内科
7. 消化器内視鏡部
8. 腎泌尿器外科
9. 耳鼻咽喉科
10. 卒後研修

協力分野ですが、1番から9番までは臨床分野です。ICU、ICU看護、心臓血管外科、脳神経外科、消化器外科、循環器内科、消化器内視鏡は、2015年度から実施させていただいていますが、今年度は腎泌尿器外科、耳鼻咽喉科を加えました。また、卒後研修も行っております。



体制ですが、日本側は、筑波大学のホーチミン事務所にお願いいただき、我々の部署の国際医療センターが実際の運営を行っております。ベトナム側は、チョーライ病院での受け入れは国際関係部ですが、実際には教育研修部が対応しています。ホーチミン医科薬科大学でも国際関係部が主に受け入れていて、研修は教育研修部がやっております。派遣、研修、色々なイベントをそれらがお互いに調整しながら行っています。

循環器セミナー

タイトル: 循環器疾患治療の新しいトレンド
 <目的> 近年ベトナムにおいては非感染性疾患が急増しており、循環器疾患の診断治療の重要性が高まっている。この状況下、同疾患の新しい診療に関して知見を深めベトナムの循環器医療協力局の向上に貢献する。
 <日程>: 2016年10月27日
 <対象>: 対象分野のチョーライ病院および南部ベトナム、ホーチミン市の病院スタッフ、ハノイ、フエの中央病院スタッフ
 <参加人数> 120人
 <発表・協議>
 1. 筑波大学附属病院スタッフ
 2. チョーライ病院スタッフ
 3. 南部ベトナム省病院、ホーチミンの病院スタッフ
 <発表テーマ>
 心臓血管外科治療、心臓血管外科術後看護、心不全、心疾患のカタテル治療

循環器セミナーを2015年10月27日に開催し、120人が参加しました。主にチョーライ病院と南部の省病院から集まりました。ハノイやフエからも招待してきております。テーマは、心臓血管外科治療、心臓血管外科術後看護に加えて循環器内科となっております。

卒後研修指導者養成ワークショップ

<目的> 2006年にベトナム保健省から発令された卒後ローテーション研修の実施が諸々の事情により行われておらず、ホーチミン医科薬科大学が責任機関としてこの実施に努めるように保健省から指定され実施を計画しており、その支援を筑波大学附属病院に要請されこれを受けて標記ワークショップを実施し、実際の研修実施に貢献することを目的とした。
 <日程>: 2016年9月27日～9月30日
 <対象>:
 1. ホーチミン医科薬科大学の指導医、ホーチミン市の病院の指導医、チョーライ病院の指導医
 2. ティエンザン省病院の指導医
 <参加人数> 60人
 <ワークショップ内容>
 1. 日本の医学教育の紹介
 2. ニーズ評価
 3. カリキュラム作成
 4. 医療技術の安全かつ系統的指導法
 5. フィードバック法

卒後研修指導者養成ワークショップは、JICA プロジェクトでも長くやってきたものですが、実際に地方病院のローテーション研修の先生となるような方達を集めてホーチミンと、ホーチミンから60キロくらい離れたところにある、パイロット省のティエンザン省で4日間行いました。

遠隔医療カファレンス(Tele-conferences)

<目的>
 チョーライ病院と筑波大学附属病院のスタッフがそれぞれの経験を発表し意見交換することにより、それぞれの診療内容、診療管理の向上に寄与する。
 <カンファレンスの開催頻度>
 協力期間中に5回実施
 <参加者>: 対象分野のスタッフ 各約20名
 <分野>
 1. 消化器外科(消化管外科): 2016年5月31日
 2. 消化器外科(肝腫瘍外科): 2016年7月11日
 3. 脳神経外科(脳血管内治療): 2016年8月26日
 4. 消化器内視鏡: 2016年10月31日
 5. 耳鼻咽喉科: 2016年11月25日
 <打ち合わせ>
 1. 双方1～2演題と協議
 2. 1～2時間

遠隔医療カンファレンスは、4年ぐらい前から筑波大学とチョーライ病院との間で行っており、プロジェクトの活動の1つとしております。半年間に5回開催しました。消化器外科が2回、脳神経外科、消化器内視鏡、耳鼻咽喉科で各1回行っております。

筑波大学附属病院からの派遣

	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
1 プロジェクト管理		⇔						
2 脳神経外科				⇔		⇔		
3 耳鼻咽喉科				⇔				
4 ICU					⇔			
5 卒後医師研修						⇔		
6 腎泌尿器外科						⇔		
7 光学医療診療部(内視鏡)						⇔		
8 心臓血管外科						⇔		
9 心臓外科術後ICU看護						⇔		
10 循環器内科						⇔		
11 消化器外科							⇔	

派遣の状況ですが、筑波大学附属病院からの派遣は延べ21名です。

チョーライ病院からの研修員受け入れ

	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
1 腎泌尿器外科								
2 卒後医師研修			⇔					
3 脳神経外科				⇔				
4 耳鼻咽喉科				⇔				
5 消化器外科(肝腫瘍科)				⇔				
6 消化器外科(消化管)					⇔			
7 消化器外科(肝胆膵)					⇔			
8 内視鏡部				⇔				
9 循環器内科						⇔		
10 心臓血管外科						⇔		
11 心臓外科術後ICU看護						⇔		
12 放射線科(IVR)						⇔		
13 ICU							⇔	

チョーライ病院からの研修員受け入れは15名でした。

筑波大学附属病院専門家の活動

<派遣期間> 原則1週間(→平均5.9日)

<TOR>

1. 技術指導
2. 術前・術後管理指導
3. 専門分野の講義
4. 診療科での会議・カンファレンスにおける助言
5. 提言
6. 報告書作成
7. エッセイ執筆
8. セミナーでの発表
9. ワークショップの実施・ファシリテーター

派遣期間は、長く行ってもらいたいところですがなかなか時間が取れないということで、筑波大学附属病院からは平均で5.9日です。もちろん技術指導や術前・術後管理の指導等に加え、実際にセミナーでの発表やワークショップ開催なども行っております。

チョーライ病院・ホーチミン医科薬科大学からの研修員の活動

<期間>原則2週間(→平均14.5日)

<TOR>

1. 専門分野の技術習得
2. 術前・術後管理の研修
3. チョーライ病院での活動紹介の発表
4. 診療科での教育研修活動を学ぶ
5. 診療科間の協力体制を学ぶ
6. 業種間の協力体制を学ぶ
7. 卒後(新卒医師)研修に関して学ぶ
8. 報告書作成(活動計画含む)
9. エッセイ執筆

研修は、2週間行っております。技術の習得等もありますが、ベトナムではなかなか部門間の連携が上手くいっていない部分がありますので、診療科間の教育体制、異業種間の教育体制を肌で感じながら学んでいただくことも目標にしています。

事業の成果(達成度)

1. チョーライ病院における医療技術の向上とそれに伴う患者サービスの向上 → 100%
2. ICU、ICU看護、心臓血管外科、脳外科、消化器外科、腎泌尿器外科、耳鼻咽喉科の分野での改善 → 100%
3. 内視鏡診断・治療分野、循環器内科分野においても技術向上を通して患者サービスが改善 → 100%
4. 協力の成果の南部ベトナム地域への波及 → 50%
5. 各診療分野における情報共有、教育活動の促進 → 30%
6. 「患者中心医療」の医療文化のCRHでの醸成 → 20%
7. 省病院での卒後ローテーション研修の強化 → 80%
8. 卒後ローテーション研修の実施 → 100%

※ただし、6か月という限られた期間での活動を通じた主観的達成度

事業の成果としましては、上3つは医療技術の向上とそれぞれの科での改善です。活動を通して100%の達成度であったと思います。協力の成果の南部ベトナム地域への波及については、セミナーを行ったりすることによって半分ぐらいは達成できたと思います。また、各診療分野における情報共有、教育活動の促進ですが、日本で何人かの人たちには感じていただいて還元しているということで30%達成となっております。患者中心医療については、一緒に働いていただいた研修員が皆、感じていることです。日本では患者さんを中心に医療を行っていると感じていただいたことが、レポートにも書かれておりました。これを広く還元するとなると難しいことですが、参加者の皆さんに今後チョーライ病院で活用していただければ良いと感じております。それから卒後のローテーション研修ですが、2006年に法令化されて実施しなければならないことになったのですが、今年度は24名に対してパイロット地域で始めることができ、大成功でございました。

今後の課題及び方針

1. チョーライ病院とはMOUを結んでおり当大学附属病院としてもできる範囲での協力を継続する
2. ホーチミン医科薬科大学ともMOUを結んでおり、今回は卒後研修の実施ができた。今後ともこの分野での協力を推進したい
3. 遠隔医療カンファレンスは、引き続き拡大して推進したい
4. 筑波大学附属病院からの派遣は若手のスタッフを比較的長い期間派遣も検討
5. 研修員の英語コミュニケーション能力の条件化
6. 病院予算のみでは困難な部分が多く、今後も外部資金を有効活用
7. 今後は、国立国際医療研究センターなどと協力してより効率的、効果的な協力を

今後の方針ですが、チョーライ病院は筑波大学附属病院とMOUを結んでおりますので、協力を継続します。ホーチミン医科薬科大学にも主に卒後研修の実施に協力してもらいます。遠隔医療カンファレンスにつきましても引き続き行っていきます。それから技術協力とは別に、現地の両病院では非常に症例が多いので、筑波大学附属病院の若手スタッフが症例を沢山経験できるため、若手を長く派遣することを多くの先生から提案されています。また、日本に来る研修員の英語によるコミュニケーション能力が問題となることが度々ありますので、しっかり条件化しようと考えております。病院の予算だけではなかなか十分な活動ができませんので、今後も外部資金を有効に活用していきたいと思っております。ベトナムで色々な施設が協力しておりますので、これらの施設と情報共有しながら効率的な協力をしていきたいと思っております。

指導医講習ワークショップ(2016年9月27日-30日)



ホーチミン医科薬科大学でのWS



テイエンガン省病院でのWS



ホーチミン医科薬科大学でのWS集合写真



テイエンガン省病院でのWS集合写真

こちらがワークショップの様子です。それぞれ臨床教育の先生を対象にして行っております。

循環器セミナー(2016年10月27日)



循環器セミナー会場



循環器セミナーパナー



循環器セミナーで講演する平松教授



循環器セミナーで発表する宮原看護師



循環器セミナーで講演する山本講師

専門家の活動(脳外科・耳鼻咽喉科 境界領域の治療)



内視鏡下頭蓋咽頭腫手術



脳外科と耳鼻咽喉科の共働手術チーム



耳鼻咽喉科田中講師の講義



脳外科阿久津講師の講義

循環器の協力



小児循環器手術指導



小児循環器術後管理(平松教授・徳永講師)



ICU(循環器)での看護指導(仁平副看護師長、宮原看護師)

循環器セミナー(2016年10月27日)



肝胆脾外科講義
(小田教授)



胸腔鏡下食道手術(明石講師)



内視鏡専門家長谷川講師・活動後の懇談会



IVR実施後
(鶴田准教授)

循環器セミナーは、南部ベトナム医療施設を対象に行いました。技術協力では、手術指導、技術指導や講義を行っ

ております。看護部門でも協力を受けています。また、現地では、このように親睦を深めることも行っています。

チョーライ病院長Dr.Sonとの会議



遠隔医療カンファレンス



5月31日・消化管外科



7月11日・肝腫瘍



10月26日・脳血管内治療(IVR)



11月25日・耳鼻咽喉科

チョーライ病院スタッフの筑波大学附属病院での研修



Dr.Khanh (IVR研修)



Dr.Cong (ENT研修)



Dr.Hoang (ICU研修)



Dr.Hien (腎泌尿器外科研修)

ホーチミン医科薬科大学スタッフの筑波大学附属 病院での卒後研修に関する研修(Dr.Tri, Dr.Hung)





それからこちらは本院での研修の様子ですが、実際の技術研修に加え、ベトナムでの医療についての報告もしてもらっております。また、本学の学生さんの何人かが別の資金でベトナムでの研修を行っております。

以上です。ありがとうございました。